

Hint

SOGO MEDICAL

医業経営情報誌

2023年7月 隔月発行

Vol.235



特集

新時代の医療提供体制を探る

医療法人新生会
総合病院 高の原中央病院

「健康経営」で質の高い医療の
継続的な提供を目指す



特集

新時代の 第62回医療提供体制を 探る

「健康経営」で職員の働きやすさを支え
質の高い医療の
継続的な提供を目指す

医療法人新生会

総合病院 高の原中央病院

奈良県奈良市

医療法人新生会総合病院高の原中央病院は2017年から、経済産業省が推進する「健康経営」の取り組みを開始。患者さんだけでなく、職員や家族、産業医として支援する企業職員の健康増進を担う。19年から5年連続して「健康経営優良法人(うち4回はホワイト500)」の認定を取得。働きやすい環境づくりにより、高度な医療サービスの提供を実現している。



医療法人新生会 総合病院 高の原中央病院

〒631-0805 奈良県奈良市右京1-3-3

TEL:0742-71-1030 www.takanohara-ch.or.jp

■診療科目:総合診療科・内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科、外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科、放射線科、耳鼻咽喉科

■病床数:249床

「断らない病院」として 地域医療を 支えていきたい

医療法人新生会
理事長

齊藤 正幸氏



患者さんの病気は治すのに、 職員の健康管理は どうなっているのか

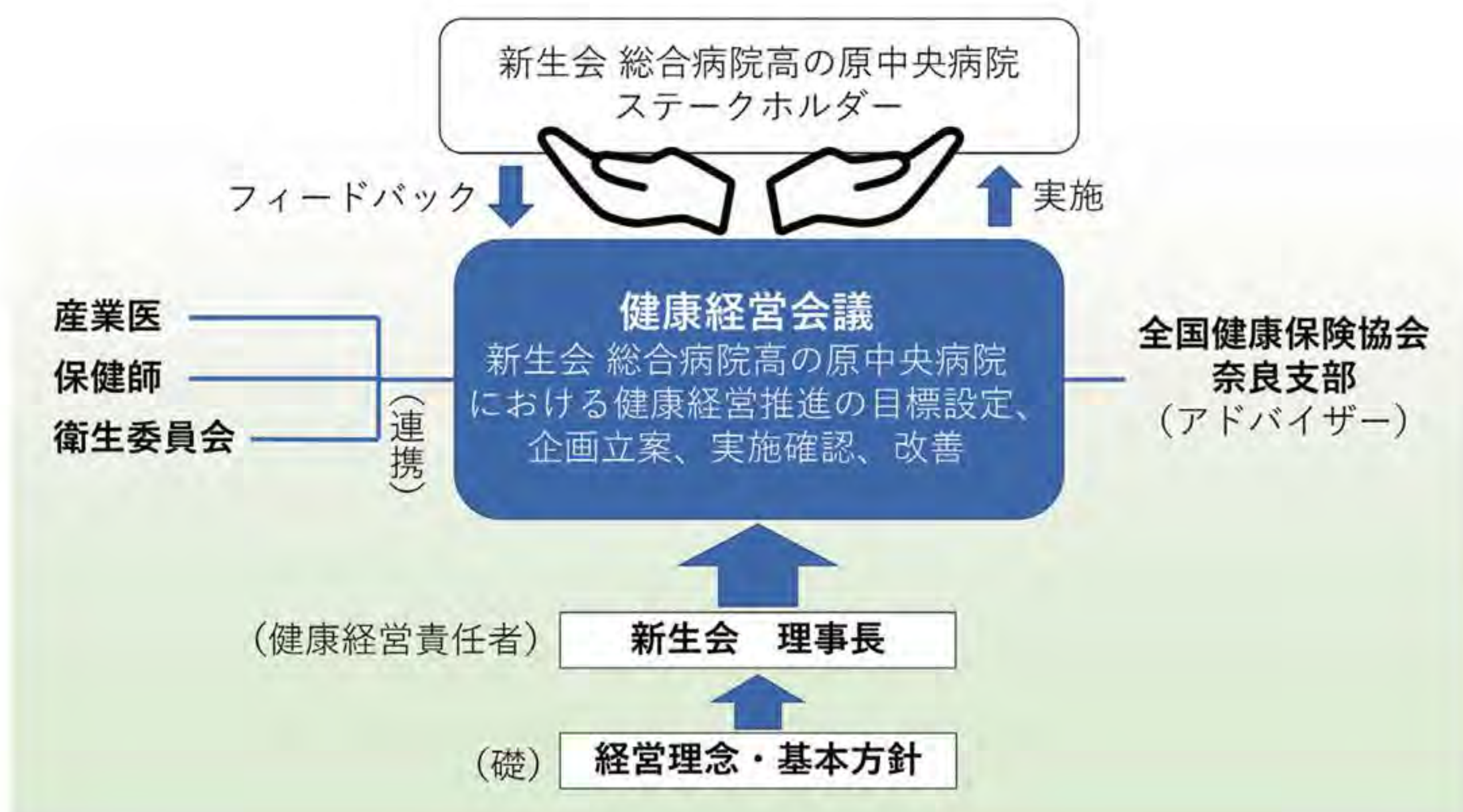
1973年、近鉄高の原駅を中心に奈良市と京都府にまたがる「平城・相良ニュータウン」が街びらきした。齊藤正幸理事長の両親が開設した医療法人新生会も同年、同駅そばに産科医院を開設し、半世紀に渡る地域医療をスタートした。同院は地域ニーズに合わせて診療科を増やし、82年には、120床の総合病院高の原中央病院へと拡大。地域の人口増加に伴い、消化器や整形外科なども新設し、現在は17診療科を標榜している。

齊藤理事長は奈良医科大学医学部を卒業後、米国の医療経営コンサルタント会社に勤務。経営の立場から医療の質向上を図ることを目指した。帰国後は医療経営コ

ンサルタントとして、複数の医療機関の経営改善に取り組む中、父の守重氏から、高の原中央病院の経営にたずさわることを打診された。

齊藤理事長は「学生時代に医療経営に興味を持ちましたが、当時は国内で勉強するところがなく、留学しました。奈良に帰ることもないと思っていたのですが、父が作成した新棟建築計画を見ていたところ、修正が必要だと感じるようになりました。当初、3年の約束で当院にかかわるようになったのですが、あれよあれよという間に、結婚して子どもができて、父も引退。2014年から理事長を引き継いで、もう10年が経とうとしています」と、慌ただしい日々だったと振り返る。

齊藤氏の理事長就任後は、特定集中治療室や高度治療室を開設するなど、急性期医療に力を注ぐ一方、健診部門が日本人間ドック健診施設機能評価の認定を受けるなど、予防部門にも注力。17年から、「健康経営」に取り組み、成果を上げている。



特集 新時代の医療提供体制を 探る

「『患者さんの病気は治すのに、職員の健康管理はどうなっているのか』が取り組みのきっかけです。医療経営で先進的な石川県の社会医療法人財団董仙会さんが制度開始の初年度から取り組んでいるのを知り、当法人も翌年から実践し始めました。健康経営のプログラムに取り組めば、健診の利用者さんにも応用できますし、産業医として企業と契約すれば、企業の職員も幸せになります。シナジーが生まれると面白そうですね」

院内外の様々な支援で、 職員のメンタル不調を改善

健康経営の取り組みの第一歩は、定期健康診断受診後の精密検査受診率の改善だった。健診結果の放置による症状の重症化は、個人の健康問題だけでなく、就業状況やパフォーマンスに深刻な影響を与え、組織運営に支

障をきたし成長を妨げる重要な要件になりうると考えるからだ。18年から、精密検査受診率80%を目標に、さまざまな取り組みを実践している。保健師から個別に受診勧奨するほか、就業時間内に受診できるよう人間ドックセンターに要精密検査対象者専用の受診環境を設定。定期健診とは別に検査・診察実施日を設けるなど、徹底して取り組んだ。18年は12.3%だった受診率は、19年は33.0%、20年は61.2%、21年は71.9%と順調に改善している。

保健師の門脇尚氏は「本当に粘り強く、何度も声を掛けて受診勧奨しています。一般の方と時間をずらすなど、相談しやすい環境を作っています。」と工夫を語る。

重大な疾病で休職する人の数は減り、医療費も減少した。身体的な病気に対しては、成果を実感できるようになったが、メンタルについては、まだ改善が必要だと感じている。業務負荷の増加やコロナ禍対応が、メンタルヘルスを起因とした長期休職者・退職者の増加につながっていると捉え、減少につなげることを喫緊の課題としている。



保健師の門脇尚さん。



常務理事・副院長、人間ドックセンター長の齊藤弥穂さん。



経営企画課長の磯村忠範さん。



近年、救急搬送件数が急激に増加している。



急性期機能を強化し、質の高い医療提供を目指す。

特集 新時代の医療提供体制を 探る

も参加できるよう配慮した。21年から、プレゼンティーズム（健康の問題を抱えつつも業務を行っている状態）やワークエンゲージメント（仕事に対するポジティブで充実した心理状態）を測定するための職員アンケートを開始。22年は、すべての指標で改善しており、健康経営や働き方改革の成果が出始めていると実感している。

いずれの取り組みも、同院が質の高い医療を継続して提供するために欠かせない経営の土台だ。「救急医療の充実」「一般急性期機能を核とした病院づくり」が、今後、同院が目指す姿だ。救急のニーズが増え、救急搬送件数は、10年前の約900件から約2,500件に増加した。

「奈良県は地域医療構想を進める中で、急性期を担う『断らない病院』と、回復期以降を担う『面倒見のいい病院』のいずれかを担うよう求めています。当院は、『断らない病院』として、質の高い医療を提供していきたいと考えています。10年ほど前から、夜間救急対応時にも、多職種連携の取り組みをより強化しており、オンコールや当直

に入る専門職の数をニーズに応じて増やしてきました。近年はニュータウンを取り囲む周辺人口が増えたことに伴い、救急搬送が増え、彼らの需要がさらに高まっています。質の高い医療をチームで提供していきたいと考えています」と抱負を語る。

HOSPITAL DATA

ホスピタルデータ

- 1973年、医療法人新生会平城診療所（19床）開設。
- 82年、総合病院高の原中央病院（120床）開設。
- 99年、199床に増床。
- 2001年、日本医療機能評価機構認定病院。
- 15年、高度治療室（HCU）運用開始。
- 17年、日本人間ドック健診施設機能評価認定施設。
- 19年、経済産業省「健康経営優良法人2019大規模法人部門（ホワイト500）」認定。（23年まで5年連続。うちホワイト500は4回認定）